

徳島県内在住の外国人の日本語習得をサポートする市民団体「JTMとくしま日本語ネットワーク」(兼松文子会長)が、発足して10年余り。これまでに指導してきたのは1400人を超えた。在住外国人は約5500人とこの10年で倍増。公的な学習機関がない中、日本語教育の一翼を担っている。

## 市民団体「JTMとくしま」

# 日本語教育 一翼を担う

### 発足10年余 外国人1400人指導

メンバーは教師や医師、ホームヘルパー、大学職員など、さまざまな職種の50人が所属し、うち15人が日本語教師として活動している。1997年、日本語教師の勉強会として発足。ほかに代わる団体がないため、次第に県内の日本語教育の柱を務めるようになった。県国際交流協会や県内各地の日本語教室、企業組合などで指導に当たるほか、モングルや中国の学校などに

メンバーは教師や医師、も講師を派遣している。

ホームヘルパー、大学職員など、さまざまな職種の50人が所属し、うち15人が日本語教師として活動している。1997年、日本語教師の勉強会として発足。ほかに代わる団体がないため、次第に県内の日本語教育の柱を務めるようになった。県国際交流協会や県内各地の日本語教室、企業組合などで指導に当たるほか、モングルや中国の学校などに

## 3月1回「寺子屋」も開催



「JTMとくしま日本語ネットワーク」が月1回開催している「にほんご寺子屋」は県国際交流プラザ

と指摘する。

4日には午後2時から県国際交流プラザで専門家を

247)。(電090(5275)7

招いたセミナー「外国にルーツを持つ子どもたちの未来への責任」を開き、より良い支援策を探る。問い合わせは兼松会長